

シンポジウム開催報告

The 2nd Japa-China Sympocium on Nanomedicine

第2回日中ナノメディシン・シンポジウム

開催日 2014年5月16日～5月17日

開催場所 広島大学医学部第4講義室、広島大学広仁会館

概要

2014年5月16日および17日に、広島大学霞キャンパスにおいて、The 2nd Japa-China Symposium on Nanomedicineを開催しました（幹事：広島大学・加藤功一）。同シンポジウムには、本邦から33名、中国から11名の多様なバックグラウンドをもつ研究者が参加し、2日間にわたってナノメディシン研究に関する極めて活発な討議が行われました。

初日は、新学術領域研究「ナノメディシン分子科学」代表・東京大学・石原一彦教授および中国科学院化学研究所長・Li jun Wan 教授から特別講演を賜り、両国における先進的かつ代表的なナノメディシン研究について紹介いただくとともに、将来の医療およびバイオ分野における応用の可能性について展望を拝聴しました。その後、参加者全員で広島大学東広島キャンパスにあるナノデバイス・バイオ融合科学研究所を訪問し、同研究所長・吉川公麿教授らの協力を得て、最先端ナノファブリケーション施設の見学を行いました。クラス10を誇るスーパークリーンルーム内で多様なナノテクノロジー関連機器の説明を受け、最先端ナノファブリケーション工程を肌身で感じることができました。

第2日目は、合計31件の演題（口頭25件、ポスター6件）の研究発表が行われました。発表内容はナノテファブリケーション、バイオイメージング、ナノスキャフォールド、再生医療、細胞培養システム開発など多岐にわたり、内容の濃い活発な議論が交わされました。

2日間のシンポジウムを通して、両国の出席者どうしが、分野の壁および国境を越え、有意義な意見交換と親密な意見交流を行うことができました。同シンポジウムを共催いただきました新学術領域研究「ナノメディシン分子科学」にこの場をお借りして深謝します。

（広島大学 加藤功一）

